

## 国連世代防災会議で、高校生のためのワークショップを開催しました。

3月15日に、国連世界防災会議の関連事業として、高校生のためのワークショップを東京エレクトロンホール（県民会館）で開催しました。高校生49名にサポート役の大学生27名高校生がついて、8つのグループに分かれ、アイデアを出し合いました。

ワークショップを指導した山形大学の上山真知子教授から与えられた課題は、人口6万人ほどの沿岸部にある被災した市で、自分たちがコミュニティセンターの職員になったことを想定し、地域を元気にするプロジェクトをグループごとに考えることでした。

さまざまな意見が出されました。グループごとに、下記の表にまとめました。

プロジェクト：地域を元気にする。					
	何をやろう	時期	どこで	どうやって	アピールポイント
1	お祭り	春～夏	仮設住宅	自治会長に企画持ち込む。 中学校に協力してもらう。 子どもたち中心。 盆踊りをする。 地元商店から寄付。 有名人を呼ぶ。	子どもを中心にしても、町内会・学校・地元商店会をも取り込む。
2	一緒に遊ぶ	長い休み期間 休みごとに	学校	お手玉 カルタ、マジック 民謡を歌う。 各家庭から持ち寄る。 市役所で呼び込みをする。	幅広い年齢層で楽しむ
3	フリーマーケット	4月～5月	中学校校庭	コミュニティセンターから広告出して人を集める。 衣替えで要らなくなった服や、おもちゃを出してもらう。 不要なものを持ち寄る。	いらないものを売ってボランティアができる。 1つの地域だけでなく他の地域の人びとも繋がれる。 みんな参加。
4	市内スポーツ合宿	秋。とりあえず1回	小学校	高校生中心。 小中交えてお泊り会とスポーツ大会。 仮設の方々を招待して一緒にやる。	子供を元気にする。 子供から大人へと明るさを伝染させる。

5	季節ごとにイベントを開催	夏と秋	運動会は外。 演奏会はセンター内。	地域通貨を作る。運動会で勝利した人に地域通貨をプレゼント。 年中行事を開催する。 朝のラジオ体操。 楽器を集めて地域の人びとで演奏。	初対面の人でも仲良くなれます。 体を動かす。
6	みんなで遠足	春と秋の年2回。続けられる限りずっと。	学校付近 地域めぐり。	ウォークラリー形式	年齢問わず、みんなが参加できる。
7	お祭り キャンプ	夏と冬。 長期休み。	夏：大きい公園。 冬：自然豊かな場所。	お祭り。 フリーマーケット。 飲食店。 有名人を呼ぶ。 動物と触れ合う。	
8	祭り	春と秋	継続。	コミュニティ広場。 各地の名産品を出店する。	老若男女が楽しみつつ、復興が目に見える。

この他にもグループ内で出されたアイデアとして、移動図書館、芋煮会、栗ひろい、ラジオ体操、野外炊飯、料理教室、お茶会、広大な公園をつくる、田んぼなどの塩害の復興、地元の特産品を活かした商品を作る、移動式遊園地、ゴミ拾い、花を植える、など、さまざまな提案が出ました。

こうしたアイデアの中から、実現可能性や参加者の多様性、年齢に配慮するなど、様々な視点から話し合いを行い、選んだテーマについてまとめ、グループごとに発表を行い、ワークショップの経験を共有しました。

発表の後にアルドリッチ先生から、講評をいただきました。

「どの発表も、素晴らしいアイデアを盛り込んでいる。多様な人々が参加する可能性を考え、しかも、一回に終わることなく継続的な活動を考えたといい点が素晴らしい。これまで、多くの専門家に自分の研究を説明してきましたが、このようなアイデアは出てきたことはありません。皆さんの理解力の高さと柔軟な考え方に感心しました。」